

幸野栞嶺没後130年

幸野栞嶺^{こうのばいれい}
作品集

敦賀市立博物館所蔵

敦賀市立博物館



いあいれい

今年は近代京都画壇の重要人物・幸野**煤嶺**^{こうのばいれい}の没後一三〇年にあたります。これを記念し、当館所蔵の煤嶺作品を全て公開いたします。

幸野煤嶺は京都の生まれですが、父親の四郎兵衛は敦賀の幸野家の出身で、家は代々馬借頭（馬で運送を行う集団の統率役）を務めていました。後に四郎兵衛は京都の両替商安田家の養子となりますが、幸野家を残すために息子の煤嶺には「幸野」の名を継がせました。このように、煤嶺のルーツが敦賀にあることから、当館では郷土ゆかりの絵師として積極的に作品を収集してきました。

煤嶺は京都府画学校（現在の京都市立芸術大学）創設時の中心人物であり、私塾も開いて後進の育成に尽力しました。煤嶺の元で学んだ弟子には、菊池芳文、竹内栖鳳、都路華香、谷口香嶠、上村松園など後の時代を代表する画家がいます。

近代京都画壇の礎を築いたキーパーソンとして欠かすことのできない煤嶺の画力を、当館所蔵品を通してご堪能いただければ幸いです。

最後に、本展の開催にあたりご協力いただきました関係者の皆様に対し、厚く御礼を申し上げます。

〇略歴

幸野 煤嶺（こうの ばいれい）

弘化元年（一八四四）―明治二十八年（一八九五）

京都の両替商・安田四郎兵衛の三男として船鉾町に生まれる。幸野煤嶺の父親は敦賀の幸野家の出身で、馬借頭を務めた家系である。後に安田家の養子となるが、息子の煤嶺には「幸野」の名を継がせたという。円山派の中島来章に入門し、後に四条派の塩川文麟に師事。慶応三年（一八六七）から明治三年（一八七〇）まで儒者で書家の神山鳳陽から漢籍を学ぶ。また、山中信天翁、江馬天江、中西耕石、田能村直入らとも交わり南画の精神に触れる。京都府画学校（現京都市立芸術大学）の創設に携わり、後に私塾を開くなど絵画教育の近代化に尽力した。煤嶺門下には四天王と呼ばれた菊池芳文、竹内栖鳳、都路華香、谷口香嶠や、川合玉堂、上村松園などがいる。また、京焼の四代清水六兵衛とは義兄弟の契りを交わした仲で、四代の息子（五代）は幸野私塾で学んでいる。

明治九年（一八七六）第五回京都博覧会で「鯉魚浮藻図」が褒状を受けたほか、内国勸業博覧会等様々な展覧会に出品し受賞を重ねる。明治十五年（一八八二）に内国絵画共進会の審査員に任命され、特別審査官となる。そのほか多くの展覧会の審査員を務めた。明治二十年（一八八七）、皇居明治宮殿皇后宮常御殿杉戸絵と同御化粧之間格天井絵を制作。

明治二十二年（一八八九）、パリ万博において銀牌を受ける。明治二十六年（一八九三）、アメリカシカゴ・コロンブス万博に「秋日田家図」を出品。同年、帝室技芸員。明治二十七年（一八九四）東本願寺御影堂の障壁画を制作。

名…直豊
字…思順
通称…角三郎

雅号・室号…煤（梅）嶺、鶯夢、晴蝸子、誠信、青竜館、六柳北圃、金仙画房、香雲深處、無声詩屋、蔵王禪堂、鶴鹿園、晴蝸禪房、長安堂、在五庵、雪廼家、如意山樵、春風樓

展覧会名…令和七年度館蔵品展

「没後一三〇年 蔵出し！幸野煤嶺」

会期…二〇二五年五月十六日（金）

七月十三日（日）

会場…敦賀市立博物館 三階展示室

凡例

一、本書は、敦賀市立博物館で二〇二五年五月十六日から七月十三日まで開催の館蔵品展「没後一三〇年 蔵出し！幸野煤嶺」に伴い発行したパンフレットである。

一、図版のキャプションは、作品番号、作品名、作者名、制作年代、所蔵館、款識、箱書、備考の順に記した。所蔵を記載していない作品は全て敦賀市立博物館所蔵である。

一、制作年のわかる作品には当時の煤嶺の年齢（数え年）を【 】内に記した。

一、本書は敦賀市立博物館所蔵の幸野煤嶺作品の全て（令和七年五月時点）を掲載することを目的としており、必ずしも展覧会の出品内容とは一致しない。また、会期中展示替えを行うため、本書掲載の作品が陳列されていない場合がある。

一、本書の執筆、編集は、敦賀市立博物館学芸員加藤敦子が担当し、館職員が補佐した。

一、落款及び資料の翻刻は敦賀市立博物館学芸員坂東佳子が補助し、若狭路文化研究所長多仁照廣氏にご助力いただいた。

一、図版に掲載した作品の写真は、主に松木写真事務所が撮影したほか、海の見える杜美術館からご提供いただいた。

〇二人の師

煤嶺は嘉永五年（一八五二）、数え年九歳で円山派の中島来章に入門し絵を学びます。後に来章の許しを得て、明治四年（一八七二）から四条派の塩川文麟に師事しました。明治五年（一八七二）まで雅号は「梅嶺」でしたが、明治六年（一八七三）からは「煤」を用いて「煤嶺」とするようになりました。画風は、円山派の「付け立て」（筆の穂先と腹とで濃淡のある墨や絵具を含ませ、一筆で形を描き立体感を表す技法）を用いた表現や、四条派の師文麟ゆずりの湿潤とした大気の表現といった流派の伝統様式を駆使しつつ、南画など流派の別にとらわれずに様々な画法や様式を参考にして表現の幅を広げていきました。

〇画学校設立

明治十一年（一八七八）八月に南画家の田能村直入が京都府知事榎村正直に画学校創設の陳情を提出します。九月には、煤嶺をはじめ久保田米僊、望月玉泉、巨勢小石が連署で京都府知事に「画学校設立建議書」を提出します。こうした画家たちの強い要望のもとに、明治十三年（一八八〇）に京都府画学校が開校されました。課業を北宗・南宗・東宗・西宗の四宗に分け、煤嶺、森寛斎、望月玉泉、鈴木松年、原在泉らが指導に携わり、田能村直入は摂理を務めました。

煤嶺は北宗の教員として指導にあたりましたが、明治十四年（一八八一）に画学校を退職します。同年には「幸野私塾」を開き、弟子たちの育成に力を注ぎました。煤嶺は基礎を重視し、厳しく徹底して教えていたといいます。

〇画壇での煤嶺 画家として、教育者として

煤嶺のように幕末から明治という激動の時代を生きた画家たちは、自身が学んできた流派の伝統的な技術や教えと、西洋に影響を受けた新しい時代の考え方や制度との狭間で葛藤し揺れ動いたことでしょう。しかし煤嶺は新しいことに敏感で、アメリカの東洋美術研究家のアーネスト・フェノロサによる『美術真説』や講演で先進的な芸術論に触れており、こうした刺激は煤嶺の絵画理念の形成にも影響を与えました。また、明治十九年（一八八六）には煤嶺主宰で森寛斎、森川曾文、久保田米僊、内海吉堂らと協議の上で京都青年絵画研究会を設立し、京都で最初の公募審査制による展覧会を開催して

います。これは流派を越えた画家たちの結束と平等な機会の提供を試みた画期的な絵画展覧会でした。

ほかにも、明治二十三年（一八九〇）には久保田米僊とともに京都美術協会を設立し、「美術工芸家と奨励家の結合」（『京都美術雜誌発行ノ趣旨』）をすることで新たな時代に対応した美術工芸の発展を求めました。

煤嶺は、明治九年（一八七六）第五回京都博覧会に「鯉魚浮藻図」を出品し褒状を受け、その後も京都博覧会や内国勸業博覧会等に出品し受賞を重ねます。また、明治十五年（一八八二）には内国絵画共進会の審査員に任命され特別審査官となります。こうして煤嶺は京都だけでなく全国の展覧会で受賞したり審査員を務めたりと活躍の場を広げていきました。明治二十年（一八八七）には皇居明治宮殿皇后宮常御殿杉戸絵と同御化粧之間格天井絵を制作。明治二十二年（一八八九）にはパリ万博で銀牌を受け、明治二十六年（一八九三）にはアメリカシカゴ・コロンブス万博に大作「秋日田家図」を出品し、画壇の重鎮と呼ぶにふさわしい活躍をみせました。そして、同年には帝室技芸員に任命されました。

煤嶺は、作品においてわかりやすく革新的な表現や手法を用いることはありませんでしたが、近世から近代の移行期の中で新しい技術や考えを拒むことなく熟考した上で、先人たちの画風を踏襲しつつ独自の綿密な写実的表現を構築しました。煤嶺の作品は真面目で知的な印象がある一方で、軽妙な筆致で洒脱みのある作品がみられる点も魅力の一つと言えるでしょう。

そして、弟子たちには写生の精神と絵の基礎を徹底させたうえで、広い世界を見て勉強し、伝統の枠に捉われない先進的な表現を開拓してたくましく活躍することを期待していました。

「わしは甘んじておまへ達の踏台になる。だからおまへ達は遠慮なくわしを踏台にして出世するがよい」²

思慮深く時代の動きを見つめた煤嶺は、新しい時代を担う弟子たちの成長に惜しみない力を注ぎ、京都画壇の近代化のために奔走し続けた先覚者なのです。

○榎嶺と敦賀

幸野家は、越前国を支配していた戦国大名の朝倉氏に仕えた
と伝えられています。天正元年（一五七三）に朝倉氏が滅亡し
た後、幸野家は敦賀に移ったとされます。「本妙寺過去帳」では、
幸野家の祖先の没年は慶長六年（一六〇一）までさかのぼるこ
とができます。

江戸時代の幸野家は、若狭国および敦賀郡を領していた小浜
藩酒井家の支配下で馬借頭（馬で運送を行う集団の統率役）を歴代
にわたって務めました。馬借座に関することを書き留めた『馬
借座役用記』（八幡神社所蔵）にも、馬借頭として「幸野」の名前
が見られます。幸野家の由緒書によれば、幸野家は「越前敦賀
茶町」（現川崎町）に居住していたようです⁴。

榎嶺の父・四郎兵衛はこの幸野家に生まれました（旧名は幸野
治郎兵衛直説）。後に京都の両替商・安田家の養子となり、安田
四郎兵衛と改名しました。

榎嶺は安田家の三男として京都で生まれますが、敦賀の幸野
家が絶えたことから、嘉永三年（一八五〇）に父四郎兵衛が榎
嶺に幸野の姓を継がせたといっています。

【幸野家資料】

本妙寺内墓所佛名 幸野家先祖代々霊

幸野家先祖累代之諸霊

一妙一信 女 慶長六年五月廿五日

一顕性院洋祐信 士 寛永元年五月十七日

（中略）

一秀傳信 士 天保八年六月廿一日

一宗善院妙秀日行信 女 天保八年七月十一日

以上

昭和十七年十一月廿四日

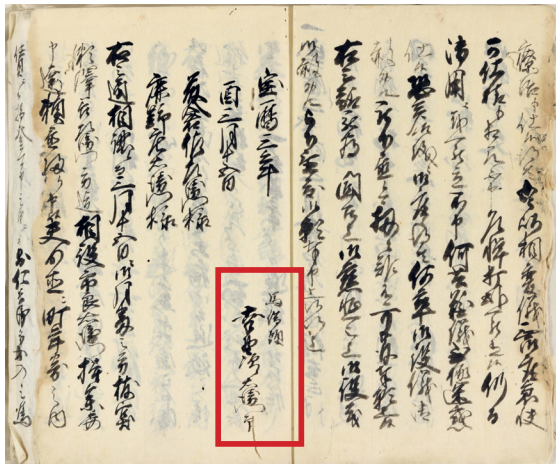
瑞應山 本妙寺

幸野西湖殿

幸野家所有資料「幸野家先祖代々霊」より引用



本妙寺（敦賀市元町）



馬借座役用記

宝暦三年（一七五三）

石井左近文書・八幡神社所蔵
敦賀市指定文化財

「馬借座役用記」（翻刻文（『敦賀市史』より引用）
一宝暦三癸酉三月 幸野次郎右衛門儀 去正月廿四日
病氣二而長々引込居被申候二付 退役之御願書指
上申度岩田江達而御願 一家中同意二在之候故無是
非岩田取次 瀬沢善左衛門方迄御願書持参、委細申
入指置歸り申候 御願書之文言、
乍恐口上書以奉願上候

仕候得共、今以相変儀無御座、急快可仕様も相見不
申、乍憚打臥罷有候、仍而御用二茂罷立不申、何共
難儀至極迷惑仕候、恐多御儀二御座候得共、何卒御
役儀御放免被下置候ハ、切々難有可奉存奉願上候、
右之趣被為 聞召上、御慈悲之上御役義御赦免被下
置度御願奉申上候、以上、
宝暦三年
西三月十五日

馬借頭

幸野次郎右衛門印

右之通相認候而、三月十五日二御月番之方杖突瀬澤
善左衛門方迄相役市良右衛門持参、委中達願置歸
り申候、夫る直二町年寄之内（以下略）



今橋から見た川崎町周辺写真

敦賀風景八ツ乃詠
（今橋夕照）

柿谷半月選・長谷川幸山画
江戸時代後期

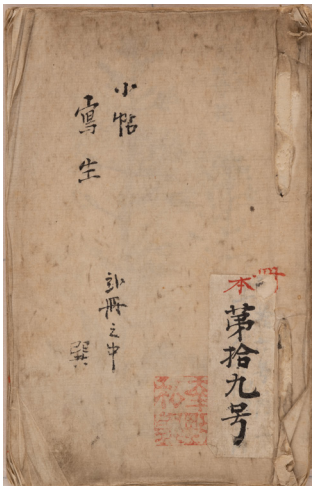
敦賀の名勝八景に狂歌等を
添えた版画。今橋を渡った画
面右側が茶町周辺（現川崎町）
にあたる。



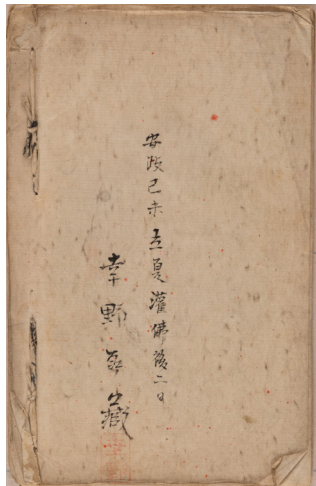
小帖写生

幸野榎嶺

安政六年（一八五九）【十六歳】
海の見える杜美術館所蔵



表紙



裏表紙



弁天岩



（参考）

絵葉書「（敦賀名勝）弁天岩」

明治末期～大正初期



龍燈松（常宮神社）

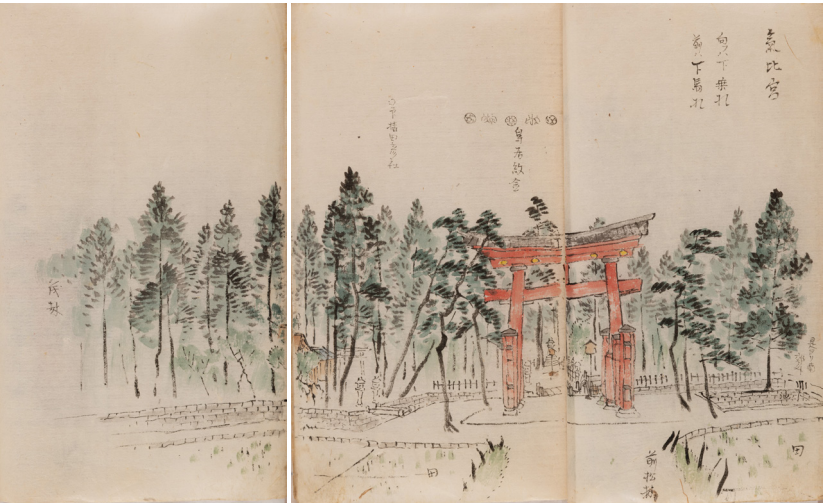
（参考）

絵葉書「敦賀名所 常宮龍燈ノ松」

明治～大正
（老朽のため松は昭和 43 年に伐採された）



常宮神社



氣比神社



鸚鵡石（西方ヶ岳）



1 卯杖図・恵比須図

幸野楳嶺

明治時代

右幅…幸梅嶺。「直豊思順」(白文長方印)
左幅…幸梅嶺。「直豊梅嶺」(白朱文橢圓連印)
森本東閣箱書(昭和二十一年)



2 海魚図

幸野楳嶺

明治時代

于音龍館東簷下／幸梅嶺寫。「幸野直豊」
(白文方印)、「梅嶺」(朱文方印)
竹内栖鳳箱書(大正五年)



3 蚩狩図

幸野楳嶺

明治時代

梅嶺。「直豊思順」(白文長方印)



4 霖雨図

幸野楳嶺

明治五年(一八七二) 【二十九歳】

明治歳在壬申南呂梅嶺豊舐毫於／坂
城之客居。「幸野直豊」(白文方印)、「思
順氏」(朱文方印)、「遊印」(筆研精良)
(白文方印)

幸野西湖箱書(大正五年)



5 魚尽盛籠図

幸野楳嶺

明治六年(一八七三) 【三十歳】

入肆銀花乱／傾箱雪片虚／明治歳
在癸酉臘月舐毫於嘯雪茶寮之／東
窓寒梅馥處／楳嶺僊子豊。／「幸
野直豊」(白文方印)、「梅嶺」(朱
文方印)、「遊印」(竹外一枝)(朱
文長方印)、「引首印」(支人行)(朱
文長方印)

幸野西湖箱書(大正十五年)



6 蓬萊山圖
幸野楳嶺

明治七年（一八七四）【三十一歲】

明治七年甲戌一月安研於凌雪書屋西廡下／楳嶺僊子豐。「幸野直豐」（白文方印）、「思順氏」（朱文方印）、「遊印」「一夢株」（白文長方印）

幸野西湖箱書（昭和九年）

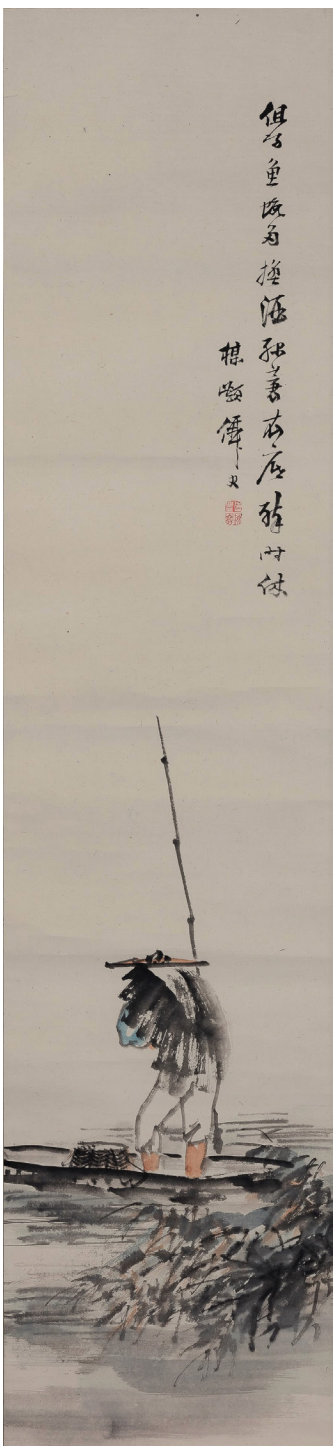


7 楠公神影圖

幸野楳嶺

明治八年（一八七五）【三十一歲】

幸豐欽寫。「直豐之印」（朱文方印）共箱【蓋表】楠公神影／【蓋裏】歲在乙亥秋日題於香雲深處／楳嶺仙史豐。「如意木樵」（朱文方印）、「不讀」（白文方印）



8 漁夫圖

幸野楳嶺

明治時代

但得魚蝦多換酒綠蓑衣底絳時休／楳嶺僊史。「直豐梅嶺」（白朱文橢圓連印）森本東閣箱書（昭和十一年）

備考・幸野豐一監修『幸野楳嶺』掲載



9 糸垂桜小禽圖

幸野楳嶺

明治時代

楳嶺僊史豐。「幸野豐印」（白文方印）、「梅嶺」（朱文方印）

幸野西湖箱書（昭和十三年）



10 舟鉾圖

幸野楳嶺

明治十四年（一八八二）【三十八歲】

明治辛巳暑月 楳嶺豐筆。「豐」（白文方印）、「筆墨生涯」（朱文方印）、「遊印」「鶯□主」（白文方印）

幸野西湖箱書（大正六年）



11 雪中清水寺図

幸野楳嶺

明治十四年（一八八二）【三十八歳】

楳嶺幸埜豊。「□豊」（朱文方印）「香雲深處」（白文方印）

旧共箱の蓋付属【蓋表】清水精舍霽雪図楳嶺仙史筆／【蓋裏】辛巳杪冬題于匣□幸埜豊。「豊」（白文方印）「筆墨生涯」（朱文方印）



12 月下砧図

幸野楳嶺

明治十八年（一八八五）【四十一歳】

乙酉十月紙毫於浪越之客次 楳嶺豊。「直豊之印」（朱文方印）、「某岑」（白文方印）

川合玉堂箱書

備考…幸野豊一監修『幸野楳嶺』掲載



13 勢譚芥川図

幸野楳嶺

明治十八年（一八八五）【四十一歳】

傲光琳先生図／楳嶺。／「幸野直豊」（白文方印）、「梅嶺」（朱文方印）

共箱【蓋表】勢譚芥河図 幸埜楳嶺繪／【蓋裏】明治乙酉榴華月題匣面 思順。「宇女越」（朱文方印）、「宅近青山」（白文方印）

備考…『楳嶺遺芳』掲載



14 敗荷鴛鴦図

幸野楳嶺

明治時代

楳嶺。「直豊」（朱文方印）

竹内栖鳳箱書

備考…幸野豊一監修『幸野楳嶺』掲載



15 豊穣鵲図

幸野楳嶺

明治時代

楳嶺。「某嶺」(朱文長方印)

幸野西湖箱書(昭和十三年)

備考…幸野豊一監修『幸野楳嶺』掲載



16 阿新丸図

幸野楳嶺

明治時代

楳嶺幸野豊。「幸豊之印」(白文方印)、

「思順」(朱文方印)



17 神武天皇秋津州舘覧図

幸野楳嶺

明治時代

幸野豊謹筆。／「幸野豊印」(白文方印)、「梅嶺」(朱文方印)

箱書【内箱】萩原員光箱書(正二位子爵員光謹書 八十叟)／【外箱】

幸野西湖箱書(昭和八年)

備考「楳嶺遺芳」、幸野豊一監修『幸野楳嶺』掲載

野楳嶺」掲載



18 孟宗図

幸野楳嶺

明治時代



19 桃花図

幸野楳嶺

明治時代



20 朝陽波濤図

幸野楳嶺

明治時代



21 戯猫図

幸野楳嶺

明治時代



22 売花賤女図

幸野楳嶺

明治時代



23 芙蓉翡翠図

幸野楳嶺

明治時代

楳嶺。「鶯夢」(朱文長方印)

楳嶺。／「早春郎止吸一杯酒」(朱文長方印)
幸野西湖箱書(昭和八年)

楳嶺。「仙世界」(朱文重郭橢円印)
森本東閣箱書(昭和十八年)
備考…幸野豊一監修『幸野楳嶺』掲載

流し葉のいろは花より／蔦もみち／楳嶺。
／「豊」(白文方印)、「如意木樵」(朱文方印)
幸野豊一箱書

楳嶺。「鶯夢」(朱文長方印)
川合玉堂箱書
備考…幸野豊一監修『幸野楳嶺』掲載



24 嵐山雪景図
幸野模嶺
明治時代
模嶺。「鶯夢」(朱文長方印)
幸野西湖箱書(大正八年)



25 江月双鴨図
幸野模嶺
明治時代
模嶺。／「豊」(朱文楕円印)
川合玉堂箱書



26 幸野模嶺自画像
幸野模嶺
明治二十六年(一八九三)
【五十歳】
斯ばかり／へげたれ男／世の中に／うら山しがられて／すむ色このみ／模嶺。「晴蝸廬」(朱文楕円印)
箱書【蓋裏】明治式拾六巳年一月五日居宅年酒の節幸野模嶺先生の髯長きを見て紅鷺先生の髯ヲ写すに／先生座を立て自像を補ひ伴讀も致るなり則先生年四拾八歳 紅鷺四拾九才なり／多田紅鷺書。「多田□」(朱文方印)、「紅鷺」(朱文方印)



27 彭祖愛菊図
幸野模嶺
明治二十七年(一八九四) 【五十一歳】
帝室技藝員幸野模嶺筆。／「幸野直豊」(白文方印)、「某嶺」(朱文方印)
共箱【蓋表】彭祖愛菊図／【蓋裏】明治廿七年甲午三月應草木雅正囑賀／湯浅吉君華甲榮壽／模嶺幸怱豊。「幸野直豊」(白文方印)、「梅嶺」(朱文方印)



28 溪頭棲鷺図
幸野模嶺
明治二十七年(一八九四) 【五十一歳】
模嶺幸怱豊。／「大日本帝室技芸員」(白文方印)、「幸野模嶺」(朱文方印)
共箱【蓋表】模嶺画溪頭棲鷺図／【蓋裏】明治甲午蒲月 鶯夢居士題。／「直豊之印」(朱文方印)「某岑」(白文方印)
備考…『模嶺遺芳』、幸野豊一監修『幸野模嶺』掲載

作品26の表装には右図のような「丸に幸」の紋が散らしてある。絵の中の模嶺も同じ紋様の羽織を着ているが、これについては竹内栖鳳の息子逸の記述がある。

「外出の時は必ず黒の紋羽織で、紋は定紋の横木瓜を廃して、幸の字を図案化したのであった。」

〔竹内逸「模嶺先生を想ふ」『模嶺遺墨』より引用〕

29 唐子遊図屏風

幸野棹嶺

慶応元年（一八六五）頃 【二十二歳頃】

於湖東客居寫／幸梅嶺。「幸野直豊」（白文方印）、
「梅嶺」（朱文方印）

備考：幸野豊一監修『幸野棹嶺』掲載



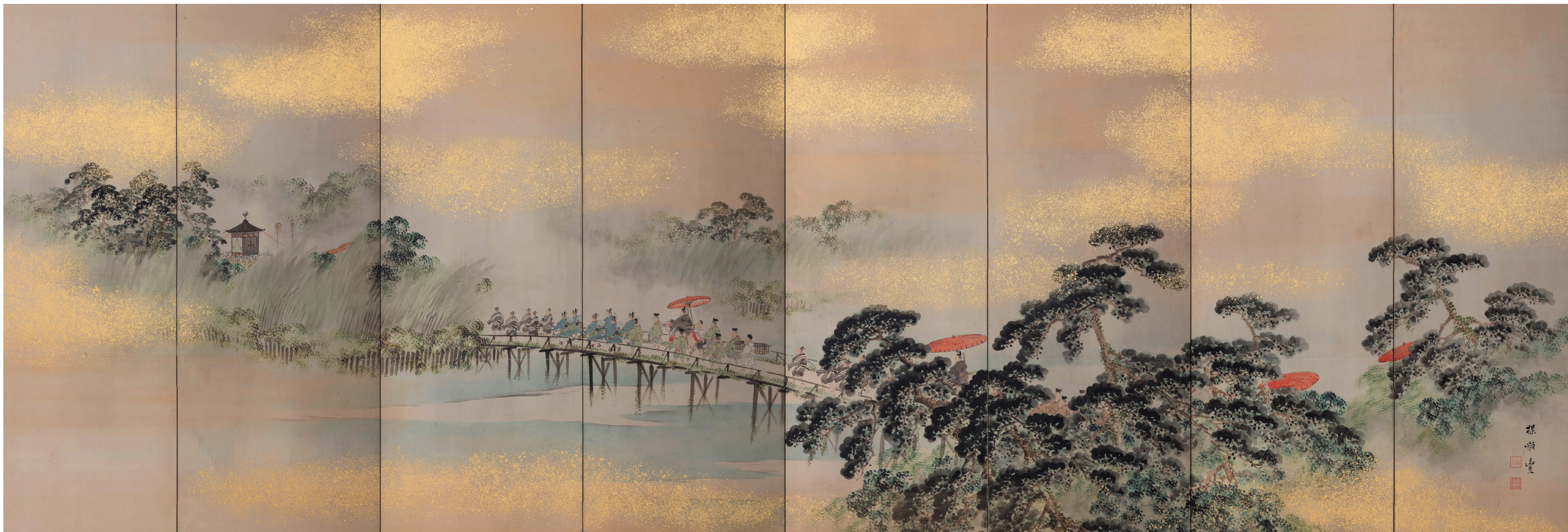
30 行幸図屏風

幸野棹嶺

明治七～十四年（一八七四
～八一）頃 【三十代】

棹嶺豊。／「□豊」（朱文方印）、
「香雲深處」（白文方印）

備考：幸野豊一監修『幸野棹嶺』
掲載



31 田舎舟遊図風炉先屏風

幸野楳嶺

明治二十四年（一八九一）

【四十八歳】

右図：楳嶺痴豊。／「幸豊之印」
（白文方印）、「思順」（朱文方印）、
《遊印》「鶯夢」（朱文方印）
左図：辛卯春日寫／楳嶺豊。／「幸
豊之印」（白文方印）、「思順」（朱
文方印）



32 若竹図屏風

幸野楳嶺

明治時代

右隻：楳嶺。「幸野直豊」（白文方印）
左隻：楳嶺。「梅嶺」（朱文方印）
備考：竹内栖鳳『楳嶺遺墨』掲載
東本願寺旧蔵品



○榎嶺と東本願寺

榎嶺と東本願寺との関係は、師の塩川文麟が、東本願寺法主厳如に榎嶺を紹介したことから始まります。明治四年（一八七二）、榎嶺は厳如の前で席上揮毫を行い、その腕に感嘆した厳如は以後榎嶺の有力な支援者となりました。九州や関東、北陸信越地方等の地方巡錫の際には榎嶺を連れて行き、記録係として旅先の景色などを描かせました。

禁門の変で焼失した東本願寺御影堂、阿弥陀堂の両堂再建（明治二十八年竣工）にあたって、榎嶺は御影堂障壁画の揮毫を委嘱されます。榎嶺はこの一大事業に対して同門や弟子たちにも協力を求めて壁画制作に心血を注ぎ、明治二十七年（一八九四）に「蓮池図」を完成させました。

ちなみに、敦賀出身の南画家・内海吉堂（一八五〇―一九二三）もこの御影堂障壁画制作を委嘱され「芦雁図」を描いています。吉堂は塩川文麟の弟子で、榎嶺の兄弟弟子にあたります。吉堂は京都青年絵画研究会の設立に携わるなど、京都画壇の中心的存在として榎嶺とは様々な場面で活動を共にしています。東本願寺御影堂障壁画制作の選出には、同じ文麟門下である榎嶺の推挙などもあった可能性があります。

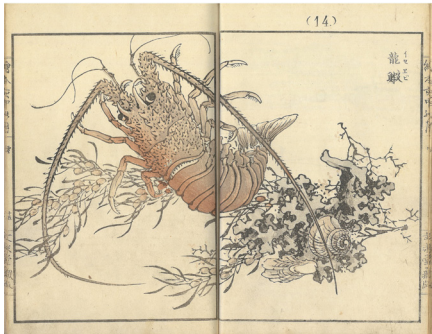
○画譜の制作

明治維新による東京奠都（遷都）などの影響で、明治初期の京都の画家たちは仕事を失い困窮します。生活の厳しい状況下で、染織品の下絵や陶器の絵付けなどで糊口をしのぐ画家もいました。当時の榎嶺は画家としての信念から、こうした応用美術の仕事でお金を得ることを拒んでいました。しかし、榎嶺は必ずしも画家が工芸品の製作に携わることを否定していたわけではありません。明治中期に国家のもとで殖産興業の推進が行われた背景もあって、榎嶺は京都の画界と工芸界とが結束して美術工芸を発展させることを望み、京都美術協会の立ち上げを主導するなどして尽力しました。また、榎嶺の私塾では画家志望者だけでなく、陶器や染織を生業にする工芸家も多く入塾し絵を学んでいました。これも、榎嶺が京都をはじめ日本の美術工芸の振興と発展、そして弟子たちの活躍を思つての方針だったといえるでしょう。

後進の手下として、また輸出口芸品向けの図案として活用されることを意識して、榎嶺は生涯にわたって多種多様な画譜を制作・出版しました。



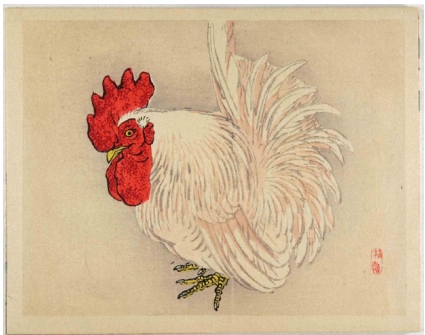
榎嶺百鳥画譜



亥中之月



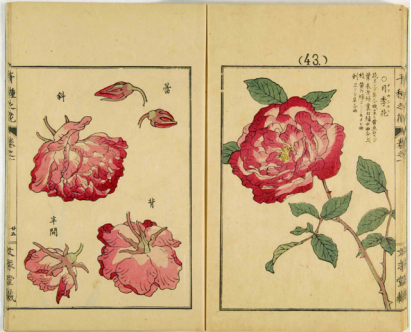
梅嶺菊百種



榎嶺画鑑



工業図式



千種之花



花鳥画譜

34 榎嶺百鳥画譜 天・地・人

幸野榎嶺

〔発行年〕明治十四年（一八八二）

36 亥中之月

幸野榎嶺

〔発行年〕明治二十二年（一八八九）

35 工業図式

幸野榎嶺

〔発行年〕明治十六年（一八八三）

37 千種之花

幸野榎嶺

〔発行年〕明治二十二～二十四年（一八八九～九二）

38 梅嶺菊百種 天・地・人

幸野榎嶺

〔発行年〕明治二十四～二十九年（一八九一～九六）

39 榎嶺花鳥画譜 春夏・秋冬

幸野榎嶺

〔発行年〕明治三十二年（一八九九）

40 榎嶺画鑑 一～七

幸野榎嶺

〔発行年〕大正二年（一九一三）再版（初版明治三十六年）

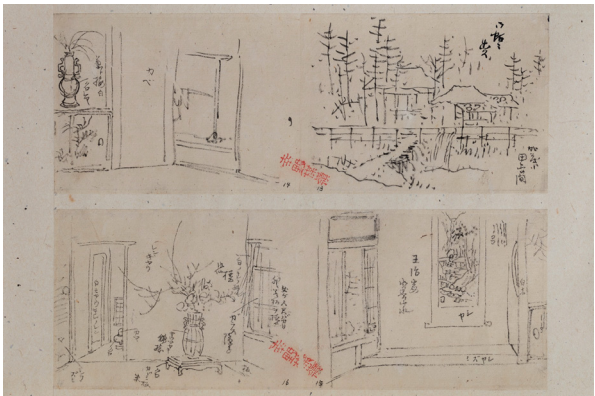
33 北陸探勝図巻

幸野榎嶺

明治十八年（一八八五）
【四十二歳】

香雲深處。／「香雲深處」
（白文方印）

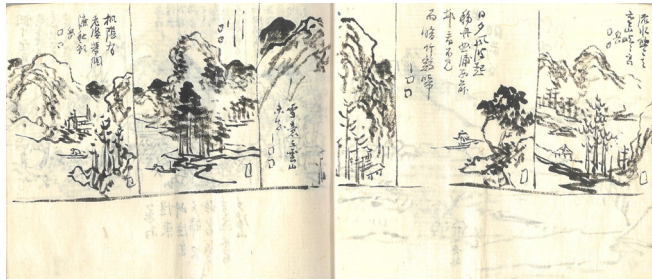
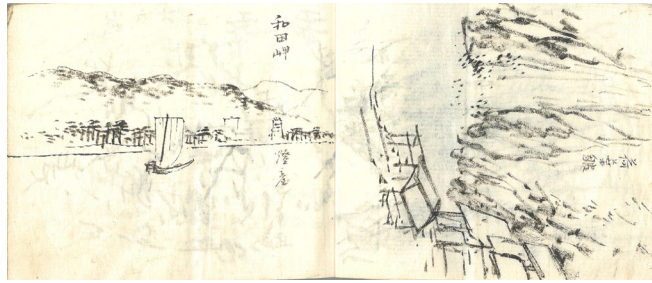
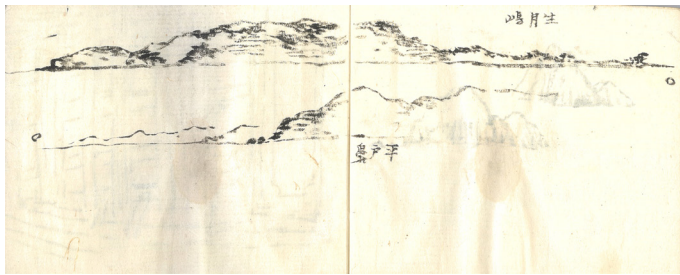
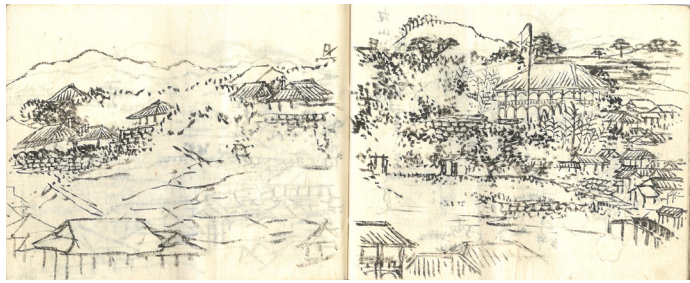
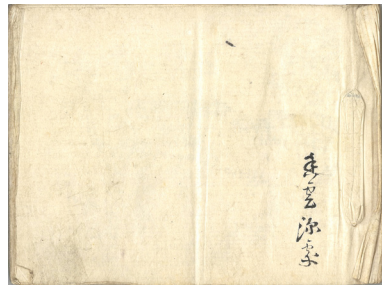
東本願寺法主厳如とその孫光演らの北陸信越地方巡錫にあたり、榎嶺と弟子の竹内栖鳳が随行した。榎嶺と栖鳳は明治十八年（一八八五）三月二十日に京都を出発し、三月二十一日に神戸港から船で東京へ向かっている。四月八日に東京で法主らと合流し、信越の旅へ出発している。本図は旅先の景観を榎嶺が画帖に写したもので、巻子に仕立てられている。浄書したものが同年八月に東本願寺に奉納された。



写生帖

幸野楳嶺

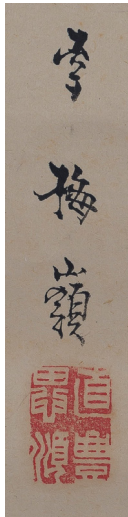
明治時代



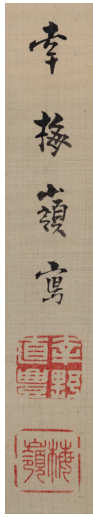
落款・印章

一、当館が所蔵する楳嶺作品の落款・印章を掲載した。
二、落款・印章は拡大縮小しており原寸大ではない。

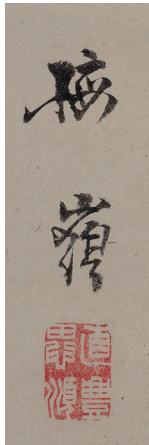
1 卯杖図・恵比須図



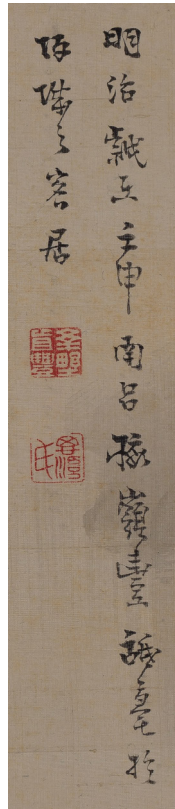
2 海魚図



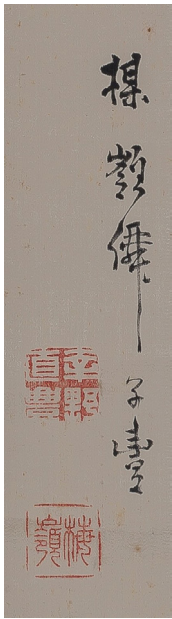
3 蛭狩図



4 霖雨図 明治五年（一八七二）



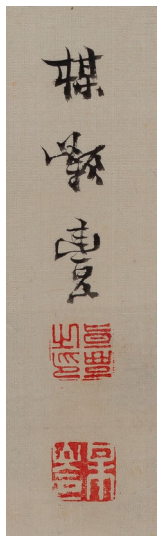
5 魚尽盛籠図 明治六年（一八七三）



8 漁夫図



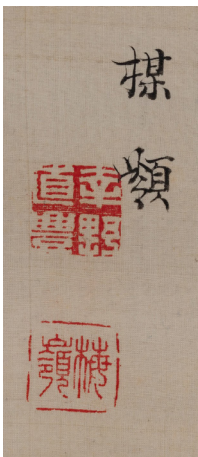
12 月下砧図 明治十八年（一八八五）



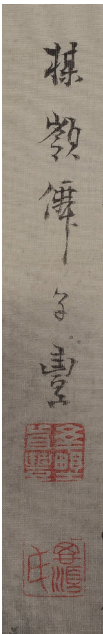
9 糸垂桜小禽図



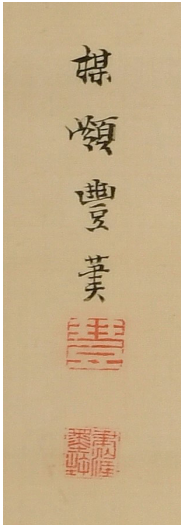
13 勢譚芥川図 明治十八年（一八八五）



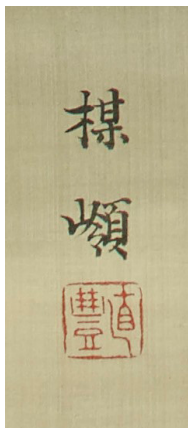
6 蓬萊山図 明治七年（一八七四）



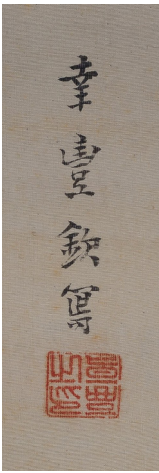
10 舟鉾図 明治十四年（一八八一）



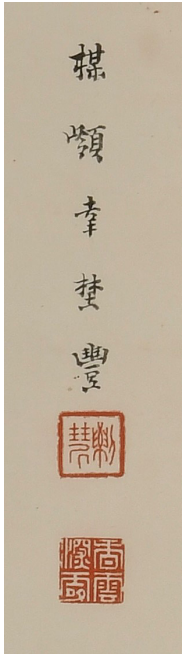
14 敗荷鴛鴦図



7 楠公神影図 明治八年（一八七五）



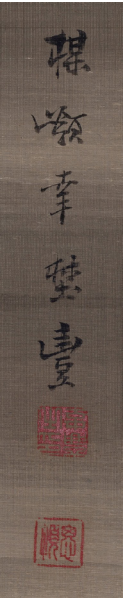
11 雪中清水寺図 明治十四年（一八八一）



15 豊穰鶴鶴図



16 阿新丸図



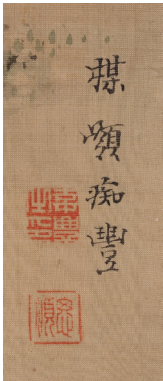
21 戯猫図



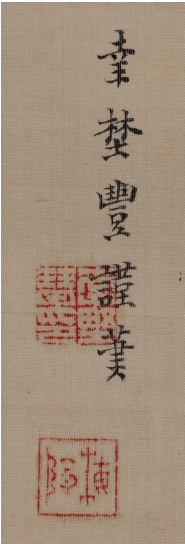
26 幸野榊嶺自画像 明治二十六年（一八九三）



31 田舎舟遊図風炉先屏風 明治二十四年（一八九二）



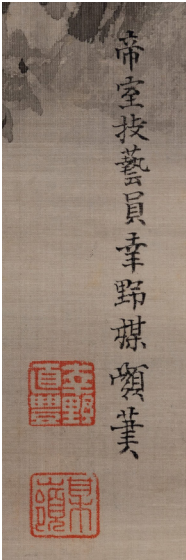
17 神武天皇秋津州叡覧図



22 売花賤女図



27 彭祖愛菊図 明治二十七年（二八九四）



18 孟宗図



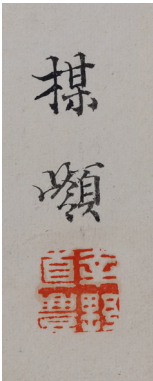
23 芙蓉翡翠図



28 溪頭棲鷺図 明治二十七年（二八九四）



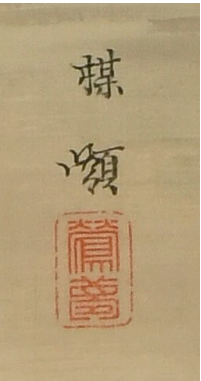
32 若竹図屏風



19 桃花図



24 嵐山雪景図



29 唐子遊図屏風 慶応元年（二八六五）頃



33 北陸探勝図巻 明治十八年（二八八五）



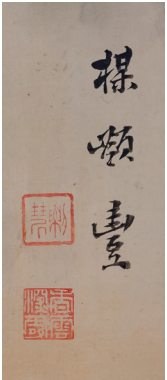
20 朝陽波濤図



25 江月双鴨図



30 行幸図屏風 明治七、十四年（二八七四、八二）頃



註

- 岡崎麻美「幸野榊嶺の絵画理念「十格」とフェノロサ『美術真説』―その作画と教育―」（『美術史』一五七号、二〇〇四年）
- 榊嶺が常に門下生に語っていた言葉。（幸野西湖「榊嶺傳」竹内栖鳳『榊嶺遺墨』、便利堂、一九四〇年）
- 「幸野家先祖代々霊」と記された資料（昭和十七年十一月二十四日、敦賀本妙寺より幸野西湖宛、幸野翔平氏所蔵）に、幸野家先祖の法名と没年が記されている。
- 田邊昌平「幸野榊嶺について」（『幸野榊嶺とその高弟（四天王） 絵画展』、敦賀市立歴史民俗資料館、一九八七年）
- 幸野西湖「榊嶺傳」（竹内栖鳳『榊嶺遺墨』、便利堂、一九四〇年）
- 海の見える杜美術館所蔵「小帖写生」（『幸野榊嶺―近代京都画壇の開拓者―』内に掲載あり（作品番号52）。図録の詳細は参考文献リストを参照のこと）
- 國賀由美子「東本願寺と京都画壇―明治度両堂再建における障壁画制作の道程」（高木博志編『近代京都と文化―「伝統」の再構築』、思文閣出版、二〇一三年）
- 岩田由美子「幸野榊嶺の明治期美術工芸界における先駆的業績について」（『幸野豊―監修『幸野榊嶺』、芸艸堂、一九九五年）

主な参考文献

- 〈論文〉
- 美澄政博「幸野榊嶺の業績について」（『美術研究』第六十二号、一九三七年）
- 岡崎麻美「幸野榊嶺の絵画理念「十格」とフェノロサ『美術真説』―その作画と教育―」（『美術史』一五七号、二〇〇四年）
- 國賀由美子「東本願寺と京都画壇―明治度両堂再建における障壁画制作の道程」（高木博志編『近代京都と文化―「伝統」の再構築』、思文閣出版、二〇一三年）
- 〈図録・画集〉
- 竹内栖鳳『榊嶺遺墨』、便利堂、一九四〇年
- 『榊嶺遺芳』、恩賜京都博物館、便利堂発行、一九三六年
- 『幸野榊嶺とその高弟展』、京都府立総合資料館、一九七五年
- 『幸野榊嶺とその高弟（四天王） 絵画展』、敦賀市立歴史民俗資料館、一九八七年
- 『幸野榊とその流派展』、滋賀県立近代美術館、京都新聞社、一九九〇年
- 『館藏品図録』、敦賀市立歴史民俗資料館、一九九一年
- 『館蔵逸品図録』一、続四、敦賀市立博物館、一九九五年、二〇〇八年
- 幸野豊一 監修『幸野榊嶺』、芸艸堂、一九九五年
- 『小企画展 幸野榊嶺展』解説ノート、敦賀市立博物館、一九九九年
- 『明治一五〇年記念企画展 京都画壇の明治』、京都市学校歴史博物館、二〇一八年
- 『幸野榊嶺が伝えたこと』、笠岡市立竹喬美術館、二〇一八年

本書の PDF データは、当館ホームページ内で公開しています。（公開は予告なく終了する場合があります）



敦賀市立博物館収蔵品
データベース
<https://jmapps.ne.jp/tsuruga/>



敦賀市立博物館ホームページ
<https://tsuruga-municipal-museum.jp/>

謝辞

本展覧会の開催にあたり、格別のご協力を賜りました左記の関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。（敬称略・順不同）

- 海の見える杜美術館
福井県立美術館
八幡神社
- 川崎 弘規
國賀 由美子
幸野 翔平
佐々木 美帆
多仁 照廣
森下 麻衣子

敦賀市立博物館所蔵 幸野榊嶺 作品集

編集・発行・印刷：敦賀市立博物館
〒九一四・〇〇六二 福井県敦賀市相生町七番八号
電話 〇七七〇・一二五・七〇三三
e-mail museum@on21.ne.jp
発行日：二〇二五年五月十六日

©二〇二五 敦賀市立博物館
※無断で転載、発行することを禁じます。

敦賀市立博物館所蔵 幸野煤嶺作品一覧 (令和7年5月現在)

No.	作者名	作品名	員数	材質・技法	形状	寸法（c m）	制作年代	所蔵
1	幸野煤嶺	卯杖図・恵比須図	双幅	紙本著色	掛軸	各 122.5 × 28.8	明治時代	敦賀市立博物館
2	幸野煤嶺	海魚図	一幅	絹本著色	掛軸	119.8 × 49.5	明治時代	敦賀市立博物館
3	幸野煤嶺	蛭狩図	一幅	紙本著色	掛軸	51.3 × 22.0	明治時代	敦賀市立博物館
4	幸野煤嶺	霖雨図	一幅	絹本墨画淡彩	掛軸	105.5 × 35.3	明治 5 年（1872）	敦賀市立博物館
5	幸野煤嶺	魚尽盛籠図	一幅	紙本著色	掛軸	119.7 × 49.0	明治 6 年（1873）	敦賀市立博物館
6	幸野煤嶺	蓬莱山図	一幅	絹本著色	掛軸	105.8 × 32.0	明治 7 年（1874）	敦賀市立博物館
7	幸野煤嶺	楠公神影図	一幅	絹本著色	掛軸	107.0 × 40.6	明治 8 年（1875）	敦賀市立博物館
8	幸野煤嶺	漁夫図	一幅	紙本墨画淡彩	掛軸	134.0 × 29.8	明治時代	敦賀市立博物館
9	幸野煤嶺	糸垂桜小禽図	一幅	絹本著色	掛軸	109.8 × 41.2	明治時代	敦賀市立博物館
10	幸野煤嶺	舟鉾図	一幅	絹本著色	掛軸	105.2 × 40.3	明治 14 年（1881）	敦賀市立博物館
11	幸野煤嶺	雪中清水寺図	一幅	紙本著色	掛軸	142.2 × 77.6	明治 14 年（1881）	敦賀市立博物館
12	幸野煤嶺	月下砵図	一幅	絹本著色	掛軸	120.0 × 45.0	明治 18 年（1885）	敦賀市立博物館
13	幸野煤嶺	勢譚芥川図	一幅	絹本著色	掛軸	227.0 × 55.2	明治 18 年（1885）	敦賀市立博物館
14	幸野煤嶺	敗荷鴛鴦図	一幅	絹本著色	掛軸	155.3 × 85.8	明治時代	敦賀市立博物館
15	幸野煤嶺	豊穰鵲図	一幅	絹本著色	掛軸	131.6 × 52.0	明治時代	敦賀市立博物館
16	幸野煤嶺	阿新丸図	一幅	絹本著色	掛軸	120.2 × 42.5	明治時代	敦賀市立博物館
17	幸野煤嶺	神武天皇秋津州觀覧図	一幅	絹本著色	掛軸	73.0 × 83.6	明治時代	敦賀市立博物館
18	幸野煤嶺	孟宗図	一幅	紙本墨画淡彩	掛軸	101.0 × 30.5	明治時代	敦賀市立博物館
19	幸野煤嶺	桃花図	一幅	紙本著色	掛軸	69.2 × 30.7	明治時代	敦賀市立博物館
20	幸野煤嶺	朝陽波濤図	一幅	絹本著色	掛軸	102.4 × 35.5	明治時代	敦賀市立博物館
21	幸野煤嶺	戯猫図	一幅	紙本著色	掛軸	122.5 × 37.6	明治時代	敦賀市立博物館
22	幸野煤嶺	売花賤女図	一幅	絹本著色	掛軸	109.7 × 40.0	明治時代	敦賀市立博物館
23	幸野煤嶺	芙蓉翡翠図	一幅	絹本著色	掛軸	133.9 × 52.9	明治時代	敦賀市立博物館
24	幸野煤嶺	嵐山雪景図	一幅	絹本著色	掛軸	130.7 × 41.0	明治時代	敦賀市立博物館
25	幸野煤嶺	江月双鴨図	一幅	絹本著色	掛軸	142.5 × 50.0	明治時代	敦賀市立博物館
26	幸野煤嶺	幸野煤嶺自画像	一幅	紙本墨画淡彩	掛軸	92.5 × 31.5	明治 26 年（1893）	敦賀市立博物館
27	幸野煤嶺	彭祖愛菊図	一幅	絹本著色	掛軸	114.5 × 41.5	明治 27 年（1894）	敦賀市立博物館
28	幸野煤嶺	溪頭棲鷺図	一幅	絹本墨画淡彩	掛軸	130.8 × 55.8	明治 27 年（1894）	敦賀市立博物館
29	幸野煤嶺	唐子遊図屏風	六曲一隻	紙本著色	屏風	90.0 × 288.0	慶応元年（1865）頃	敦賀市立博物館
30	幸野煤嶺	行幸図屏風	八曲一隻	紙本著色	屏風	107.0 × 317.0	明治 7 ～ 14 年 （1874 ～ 81）頃	敦賀市立博物館
31	幸野煤嶺	田舎舟遊図風炉先屏風	二曲一隻	絹本著色	屏風	各 32.9 × 81.6	明治 24 年（1891）	敦賀市立博物館
32	幸野煤嶺	若竹図屏風	四曲一双	紙本墨画淡彩	屏風	152.0 × 282.0	明治時代	敦賀市立博物館
33	幸野煤嶺	北陸探勝図巻	全三巻	紙本墨画淡彩	卷子	各 29.8 ×（上）646.0（中）675.0（下）713.0	明治 18 年（1885）	敦賀市立博物館
34	幸野煤嶺	煤嶺百鳥画譜 天・地・人	三冊	紙本色刷	版本	各 24.3 × 16.5	〔発行年〕明治 14 年（1881）	敦賀市立博物館
35	幸野煤嶺	工業図式	五冊	紙本色刷	版本	各 12.0 × 18.1	〔発行年〕明治 16 年（1883）	敦賀市立博物館
36	幸野煤嶺	亥中之月	一冊	紙本色刷	版本	23.8 × 16.7	〔発行年〕明治 22 年（1889）	敦賀市立博物館
37	幸野煤嶺	千種之花	四冊	紙本色刷	版本	各 23.8 × 15.5	〔発行年〕明治 22 ～ 24 年 （1889 ～ 91）	敦賀市立博物館
38	幸野煤嶺	梅嶺菊百種 天・地・人	三冊	紙本色刷	版本	各 25.0 × 16.7	〔発行年〕明治 24 ～ 29 年 （1891 ～ 96）	敦賀市立博物館
39	幸野煤嶺	煤嶺花鳥画譜 春夏・秋冬	二冊	紙本色刷	版本	各 37.0 × 25.4	〔発行年〕明治 32 年（1899）	敦賀市立博物館
40	幸野煤嶺	煤嶺画鑑 一～七	七冊	紙本色刷	版本	各 21.0 × 13.1	〔発行年〕大正 2 年（1913） 再版（初版明治 36 年）	敦賀市立博物館
41	幸野煤嶺	写生帖	一冊	紙本墨画	冊子	12.0 × 16.0	明治時代	敦賀市立博物館